

大保木地区タウンミーティング開催報告	
日時	令和3年12月23日（木）14：00～15：30
場所	石鎚ふれあいの里 研修室
参加者	【地域側：13人】大保木地区連合自治会長、大保木自治会長、中奥自治会長、西之川自治会長、大保木消防団分団長、石鎚ふれあいの里所長、西条自然学校理事長、地域代表（元兎之山自治会長）、地域代表（林業）、大保木地区内後継者代表、公民館利用者代表3人 【傍聴者：2人】 【行政側：6人】市長、大保木公民館長、市民生活部長、こども健康部長、教育委員会管理部長、公共施設マネジメント推進室長
次第	1 開会 2 挨拶（大保木地区連合自治会長） 3 市長挨拶・事業説明 4 意見交換：テーマ「大保木地域内の公共施設の有効利用について」（現状と課題説明及び参加者全員による話し合い） 5 まとめ・閉会
概要	
自治会長挨拶	今日の会が地域の活性化に繋がるように、地域を代表する皆さんの意見を理解していただきたい。過疎化の原因は産業の衰退とも言える。行政にはスピード感を持って対応いただきたい。
市長事業説明	・コロナウイルス対策については、ワクチン接種の安全安心な環境整備と、市民生活を取り戻すため経済対策に重点を置く。 ・西条市の将来推計人口は30年間で約28%減少（2015年 108,174人 ⇒2045年 78,307人） ・人口減少対策として移住推進に力を入れており、みんなで「共創」して持続可能なまちを実現していきたい。
テーマに関する現状等	地域内にある公共施設の有効利用について、今後の人口減少によりこれまでどおりの利用が見込めなくなった場合に、民間や有志で使いたい人がいれば使えるように行政が売却もしくは譲渡していただきたいと思っている。観光など産業の発展にもなるようなアイデアを練って、大保木の活性化を図りたい。
参加者の発言要旨	
市の発言要旨（及び対応）	
<p><公共施設の有効活用について> 次の【①～③】の施設は行政の管理（所有）を解いて、この地域で活用希望がある人や団体等に売却・譲渡するなど民間への引き渡しを進めてほしい。</p> <p>市から施設を引き受けるとしても、地域がその後の活用方法を明確に決めることは難しい状況のようだ。</p> <p>西条自然学校としては、食品の加工場と教室などの催しをする施設がほしい。地域の皆さんと一緒にそのような施設をつくることを目指している。</p>	<p>大枠を説明させていただくと、本市は同規模自治体と比べ、1.6倍もの公共施設を所有しており、その内55%の建物が築30年を経過し老朽化が進んでいる。</p> <p>現状と同じ施設規模で更新していけば、平成29年度から令和38年度までの40年間で年平均58.2億円の費用を要し、それまでの1.7倍の負担となる。</p> <p>人口減少が進む中で、将来世代に負担を強いることになり、課題を先送りすることはできない。そこで、40年間で施設の延床面積を20%削減させながら機能やサービスの向上を図る公共施設マネジメントを進めている。</p>
<p>【①浦山小学校跡】 浦山地区の人口は、数人程度である。小学校跡を使って何か取組みを開始できれば良いと考える。</p>	<p>施設の利活用という点では、新たな活用があるのなら、協議を整え使っていただきたい。</p>
<p>【②大保木集会所】 集会施設は、公民館があれば十分である。 大保木集会所は、費用負担も含めて自治会で維持管理していくのは大変だという結論である。新たに施設を利用していただける企業等があれば、ぜひ引き渡したい。 西之川集会所は、避難場所にもなっているため、現自治会長の任期中は引き続き自治会で管理していきたい。</p>	<p>大保木に限らず地域での管理が難しくなる中で、今後、集会所のあり方が変わってくることも考えられる。</p> <p>大保木集会所については、水力発電施設周辺地域交付金を活用した修繕（平成12年度）や地権者に対する借地料支払い等の経緯を踏まえ、協議していきたい。地域でもどのような活用が可能なのかわらかにしていただき、その上で行政の手続きを検討していく。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p>【③大保木診療所（管理住宅含む）】</p> <p>医師が週に1度診察に来てくれているが、地域の利用者は数人である。診療所までの移動が困難な高齢者もあり、公民館長が支援している状況である。</p> <p>山の施設を利用しようという思いから、半ば義務感で利用している者もある。診療所は限られた時間のみであり、普段は市街地にあるかかりつけ病院に行く住民が多い。</p> <p>診療所を廃止し、それにより不用となる施設を市から民間に引き渡してほしい。管理住宅は今のままでは使い道もなく、どうすることもできない。</p>	<p>診療所の先生からは「行ける間は行く」とのお言葉をいただいている。ここは話し合いをしなければならない。</p> <p>診療所及び併設する木造2階建て住宅は昭和35年に愛媛県から診療業務に利用する条件付きで譲渡を受けたもので、他用途に使用する場合は、県の上乗せを要しなければならない。</p> <p>今後の利用方法がわかった上で、利用者や医師会との調整、そして将来的な地域医療のあり方を含めて対応する。オンライン診療なども検討していく。</p>
<p><望ましい診療体制と交通手段について></p> <p>診療所の先生の言葉を聞くと、このまま継続でも良いかと思う。一人でも利用者があるならという気持ちもわかる。</p> <p>一方で、効率的な運営と住民の利便性を考えると医師が患者の家まで訪問し、診察してもらうような体制が望ましいのではないかと。</p>	<p>在宅医療には「往診」と「訪問診療」の2種類がある。</p> <p>○往診：患者側が医療機関に直接往診を求め、医師が必要性を認めた場合に実施。あくまで臨時的な診療。</p> <p>○訪問診療：医師が通院困難と判断し、患者の同意の上で計画的な医学管理の下、定期的に訪問し診療する。</p> <p>一度体制を変えると元には戻せないもので、地域の考えをまとめるとともに、医師側の判断も大きなポイントとなる。</p>
<p>往診や訪問診療が難しいとしても、タクシーの利用助成で病院に行けるようにすれば、効率的な予算運営ができるのではないかと。</p>	<p>外出支援策としては、タクシー基本料金のチケット交付がある。（年間上限12枚。75歳以上で市民税非課税世帯の在宅高齢者が対象）</p> <p>しかしながら、大保木地区は遠距離になるので、タクシーチケット利用のみでは足りないかもしれない。</p>
<p>交通手段の確保という点では、デマンドタクシー（予約制乗合タクシー）の話も聞いているが、お年寄りだけでなく、地域にやって来る若者（移住者）とも共用していけると良い。</p>	<p>公共交通において、不採算路線を見直そうという動きがあり、昨年バス路線が廃止になった加茂地区ではデマンドタクシーを導入している。大保木地区でも今後検討したい。</p>
<p><今後の消防体制について></p> <p>現状は、特例適用により大保木分団員の定年を75歳としているが、高齢化による人員不足で、3～5年後のうちに、いずれどこかの分団に統合せざるを得ないと認識している。</p> <p>少ない団員数で山火事の予防啓発など活動が続いているが、団員が減っている状況であり、今後どのような形が良いか自治会や分団員、消防関係者と協議していきたい。</p> <p>また消防ポンプ蔵置所（千野々、兎之山、上の原）を撤去するかどうかともよく考えて要望していきたい。</p>	<p>消防分団の組織再編に取り組んでおり、桜樹分団は中川分団に統合する形となった。</p> <p>大保木においても、地域をよく知る皆様のご協力をいただきながら、機能別団員（火災・水防活動など災害出動に特化した団員）も含めて、どういう消防・防災体制が望ましいかを自治会と市（消防団・消防本部）が一緒になって協議を続ける。</p>
<p><公民館の整備について></p> <p>地域内の公共施設の多くは耐震化が未実施となっている。</p> <p>中でも公民館は地域の核になる施設で、今後もなくはない。既に築後70年近く経過しており、放置されているようで不安である。</p> <p>新築や別施設との統合を望んでいるわけではないが、建物は母校の学び舎（前大保木中学校）でもあり、今後の管理がどうなるのかお聞きしたい。</p>	<p>大保木公民館（建築基準法制定以前に建築）は、耐震基準を満たしている建物ではないが、平成16年災害の復旧改修において、一定の安全性を確保できていると考える。施設の経過年数や改修費用、利用状況などを勘案すると、現在の木造建物の耐震基準に合うような改修は難しいと考えている。</p> <p>公共施設マネジメントの方針を踏まえ、今後の公民館のあり方を検討したい。形が変わっていくかもしれないが、放置をしないという点では地域の方の公民館への思い入れも受け止める。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p><その他の施設の整備について> ふれあいの里の奥に講堂があり、過去には危険性から撤去する話もあったと聞かすが、緊急性がないためそのままの状態である。 ふれあいの里には、多くのお客さんがいらっしゃるので、処分を検討していただきたい。</p>	<p>使途もなく、建物は老朽化し、災害などで倒壊の恐れがあるなど、状況を整理する。除却も検討しなければならない。 多くの方がお越しになる場所で、放置はしないよう公共施設マネジメントによるチェックをしていく。</p>
<p>登山等観光で来る方が多いので、トイレをきれいにしておくことも大事である。掃除をしていただいているが、設備そのものの年数が経過しており、観光のイメージアップのためにも改装いただきたい。</p>	
<p>大保木公民館の講堂裏にある「西条市へき地保育園・大保木保育所」は利用しておらず、解体、撤去をお願いしたい。</p>	<p>解体、撤去を行うには、所有者を明確にする必要があるため、専門家の意見等も伺い適切に対応してまいりたい。</p>
<p><移住者向けの住まいについて> 山に移住したいという相談を受けることが多い。ネックになるのが住宅で、「空き家バンク」でもなかなかニーズに合う物件を見つけれない。 そんな中、診療所と隣接する住宅は貴重な物件ですぐにでも住みたいという家族もいる。 また、移住者を受け入れる地元側の雰囲気も含め「協働」していける地域になればと思っている。</p>	<p>移住に力を入れてきた。住む場所については、完全なリニューアルではなくもしっかり暮らせるようにサポートしている。空き家バンク制度も周知させていきながら、物件の確保にも注力したい。 移住者がそこに馴染めるかどうかは、受け入れる側の温かく包む環境も大切である。ハード面だけでなくソフト面の整備も必要だと思う。</p>
<p><獣害対策について> 西之川では人口は減っているが、サルの出没が多く、農作物を奪われ困っている。兎之山でも集団で出没しているようだ。</p>	<p>「対症療法ではいけない」という核心を突いた意見をいただいた。真剣に考えなければならない。 シカ防護ネットの案件も持ち帰り、確認させていただく。</p>
<p>対症療法ではいつまでも経費がかかる。長期的な成功のためには「捕獲」ではない対策が重要である。 シカ防護ネットの施工を請け負っているが、収入根拠となる積算単価の設定が低いため、獣害対策を行うほど赤字となり、経営が圧迫されている。市からも積算の見直しを働きかけてほしい。 また、愛媛県では森林環境税を使い事業を広げると聞いている。木の皆伐を進めるようだが、その後植える作業の担い手が不足している。 仕事を探す移住者へ林業を勧めるのも良いと思う。</p>	<p>現在、こどもの国を新たに「西条市ひと・夢・未来創造拠点複合施設」として施設再編しており、そこで住まいやお仕事情報等の提供、関係者への繋ぎなどが一元的に相談できるような移住者サポート機能を設ける予定である。</p>
<p><集会所改修の補助金について> 数年前に兎之山集会所の修理を行った。市の補助金申請にあたり、現況を修理する場合のみ補助対象になると説明を受けた。畳からフローリングに変更したかったが、それは対象外であるため畳を新しくした。 できれば、屋根の新築もしたいと思っている。 補助金活用の要件を見直していただけるとありがたい。</p>	<p>市の補助金交付要綱により、修繕や改修について要件を定めている。フローリングの方が利便性が良いことは確かだが、要件に該当するか解釈が難しいところもある。現在の補助金の運用状況を確認し、必要ならば要綱を改めることも検討したい。 屋根の件も今一度確認させていただく。</p>
<p><空き家管理について> ふれあいの里周辺でハチが空き家に巣をつくったことがあり、訪れる方々にも迷惑をかけた。 空き家の適切な管理をお願いしたい。</p>	<p>家屋の管理は、第一義的には所有者の責任で行っていただく。 所有者等に指導を行うにあたって、地域のことは皆さんがよく把握していると思うので、何か情報があれば空家対策係まで連絡していただきたい。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p><市道の改善について> 黒瀬ダムの周遊道路（市道）にデコボコや土砂崩れがあるので、対応いただきたい。 また、兎之山では回路に使っている市道について、通りやすくなるように要望していた。対応いただけただけのおかげで道が良くなったが、通行車両が増えて離合できない。2か所程度待避所を設けていただけるとありがたい。</p>	<p>周遊道路で大型車両の通行により損傷があった箇所については、黒瀬ダムが舗装補修を実施することになっているが、早急に対応が必要な箇所は市の方でも検討したい。 待避所をつくるとなると、地権者から同意を得るなど地元の協力をいただくことになる。</p>
<p><やすらぎ苑について> 先日も多くの方で混み合っており、2時間ほどを費やした。誰もが利用する施設だが、老朽化しており、待合室も不便だと感じた。 建て替えるような予定があるか。</p>	<p>建て替えではなく、リニューアルを考えている。火葬炉の更新を行い、併せて、上層階を改修して待合室をフローリング化する等利便性の向上を図る予定である。</p>
<p>まとめ</p>	<p><市長> 皆さんの地域を良くしようという思いから、盛んな意見交換となった。大保木特有の地域課題があり、我々に何ができるかをしっかり考えながら、皆さんと情報共有し、丁寧な説明をしてまいりたい。一緒になって地域づくりを考えていきたい。 <連合自治会長> 地元を愛することが地域づくりの原点である。これから創造していくことが持続可能な社会への一歩となる。そのために何をすれば良いかを考えるのが課題である。</p>

<当日の様子>

